12.「あたしの声」

「左側のポリープが大きくなっています。どうしますか。取りますか」

「……あの、やっぱり取ったほうがいいんでしょうか?」

「そうですね。そうできるのであれば、そのほうがいいでしょう」

YUKIは記憶をたどった。

いったいいつから、この病院へ通うようになったのだろう、と。

『ORANGE SUNSHINE』を作っていたころだから、もうかれこれ３年以上、お世話になっているのかもしれない。

ずっとこいつに悩まされてきた。切ってすっきり治せるのなら、それもいいかもしれない。しかし、ポリープとうまく付き合っている人も大勢いると聞いている。切るべきか、それとも、これまでよりもっと上手にこいつと共存できる方法を考えるべきか。

「取ります。取ってください。よろしくお願いします」

1997年9月7日、夏のスタジアム・ツアーのファイナルとなった甲子園球場のステージで、YUKIは初めて喉に異変を感じた。

ある瞬間、プチッと何かから遮断されたような気がして、そこからあとは声が枯れて、どんどん出なくなっていく。

自分にしかわからない、微妙な変化だった。

ライブは無事に終わり、アンコールでは自分でもグッとくるような「LOVER SOUL」を歌えた。だが、ステージを降りると肩が痛かった。

今日はもう声の限界だ。でも明日から少し休めば大丈夫。シングルのレコーディングまでには十分、復活する——YUKIはそう思っていた。

（悲しいのかうれしいのかわからない。さようなら！ 私の夏）

東京に戻ったら、部屋を探して引っ越しもしたい。桜の樹の見える今の家は、この２年の間に購入した家具や洋服ですっかり手狭になっていた。それに、ここのところ、わけもなく気分が揺れがちだ。

不要なものは処分して、すっきりしたい。そうすれば少しは気持ちも落ち着くだろう……。しかし、喉はいっこうに回復しなかった。

（喉の回復が遅い。おかしい。お腹が痛い。あたしが揺れている）

10月、シングル「散歩道」「ステキなうた」のボーカル・ダビングを終えたところで、YUKIは声をつぶしてしまう。喉の左側の痛みは、もはや治まりそうになかった。10月18日、ポリープの切除を決める。そして、なにもこんなときにという感じだが、大慌てで部屋を探し引っ越しの段取りをつけて、11月11日、入院。YUKIは翌日、手術を受けた。

（喉が渇く。何か飲みたい。食べれるようになったら、何を食べようかな。いっぱい食べたいなぁ）

心電図をとって朝から点滴ばかりである。手術は無事に終わった。声はもちろん出せない。水も飲めない。お腹が空いても、何も食べられないのがことさらつらい。体の不自由を覚えて初めて、点滴や注射をしなくても済む体を大事にしなくてはということに、人は気づく。

声は出せないから、すべて文字ボードか筆談だった。それなのに。

「磯谷さん、この点滴が終わったらナース・コールしてくだいね」

「はぁい」

（はっ！！！ しまった！ しゃべっちゃったよ！！？）

「磯谷さん。ダメですよ。気をつけてください」

（……だったら話しかけずに文字ボード使ってくれよぉ。あたしも気が抜けてたからだ。失敗だ。これでダメになったら、どうしよう？）

友達はみんな気を遣って、ファックスで見舞ってくれる。病院まで会いにきても、聴きたかったCDや手紙を置いていってくれる。

YUKIはポリープの手術をすることを、なるべく軽く考えようとしていた。過度にナーバスになったりしたくなかった。

「まだ水分は取れません」

「固形の食べ物はしばらく無理です」

「声を出しちゃいけません」

ストレスは溜まったが、音楽の素晴らしさに気づけた。エルヴィス・コステロやボブ・マーリィ、今までちゃんと聴いたことのなかったビートルズのCDを聴いていると、どんどん音楽が体に入ってくる。

（なんだろう……この感覚。久しぶりだ。音楽聴いて泣ける）

お気に入りだったのは、そのころ出たジャネット・ジャクソンの『THE VELVET ROPE』。ずっと聴いていて、少しだけなら小さく声を出してもいいですよと言われたころ、思わず口ずさんでしまった。

（あ。しまった。歌っちゃった。……でも、声を出すのって楽しいなぁ。ジャネットと一緒に歌っちゃった！）

11月23日 JIROちゃん、TAKUROくん、オダが来てくれる。

外出許可を取って、ごはんを外に出て食べる。

ありがとう。うれしい。

喉を大事にしなくちゃ。

もうヤケになって歌ったりしないようにしよう。

絶対にこの声を守ろう。これが最後のチャンスだ。

退院してリハビリをして、新しい歌をうたう日が楽しみになった。

「レコーディングを先に延ばす？いや、予定通りにやろうよ」

声帯にメスを入れる、そのことの重大さを、あえて深く考えないようにしていたのかもしれない。予定通り、年明けすぐにロンドン・レコーディングを始めると決めている。退院から１ヵ月半と空いてはいない。それがどんなに無謀なことか、YUKIはまだ気づいていない。